

# 井戸端だより

第 37 号

2002.3.31

くらしの学習会



年々早まる桜の開花時期に、地球環境の不気味な変化を感じるのは私だけでしょうか。それぞれのスタートの時期を目前に控え、親しい人との別れを惜しみつつ、気ぜわしさと共に、期待と、希望をかすかに胸に秘めながら毎日を過ごしています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

さて、くらしの学習会では、一足早く、1月に2002年度のスタートを切りました。以下、活動報告です。

1月21日、総会を行いました。会計報告なども行われましたので、ご覧ください。(p.2) 今年度は、昨年12月に町が行った合併問題に関するアンケート結果が出て、合併問題についての町の基本姿勢が明らかにされるということ、くらしの学習会でもこの問題はさけて通れないだろうということになりましたが、近々公開されるアンケート結果を待ってその後の対応を考えることになりました。また、この時出たゴミ問題については、その後の経緯を含め会員に原稿を書いてもらいましたので、一緒に考えてください。(P.2)

2月1日付けで町より合併に関するアンケート結果が公表されました。(正確には市町村合併に関する住民意向調査ダイジェスト版なる冊子が各戸に配布されました) 20歳以上の町民2300名(無作為抽出)のうち1286名(55.9%)から回答を得たということです。その結果合併する場合は、川内町との合併の方がよいと答えた人は全体の46.3%、松山市との合併の方がよいと答えた人は44.4%だったそうです。これをどう考えるのか。その後の町の対応を見ると、この一部の人のアンケート結果のこの僅少差をもって、更に2月1日行われた町内有力団体長との懇談会での雰囲気を持って、川内町との合併に向けて動いているようです。くらしの学習会では一度話し合いを持つ予定でしたが、諸般の事情により2月中の実現はできませんでした。

3月は別れの時期、くらしの学習会でも活動会員の異動があり、3月18日送別会を兼ねて例会を行いました。手料理も並んだせいか、久しぶりの盛会で、話も弾みました。

川の汚染の現実について、横河原住民より原稿をお寄せいただきました。

## ごみを考える

一昨年(2001)年の11月末、くらしの学習会が町長と懇談をした。

その席上で会員が『川内町のごみが重信町のごみ焼却炉に運ばれて来ると言う噂があるが本当ですか？合併問題と関係があるのですか？』と質問した。

折りしも、合併の基本パターンが県より提示された時期で、多様なパターンをと重信と川内の両町長が重信・川内合併案を県へ申し出ようとしていた時でもあった。一方、2002年12月よりダイオキシンの規制が厳しくなり、将来県内8ヶ所の大型炉をと決めた時期でもあった。

そのときの町長の答えは、「合併とは関係ない。川内町の焼却炉は国の基準(ダイオキシン)をクリアできないので川内町から申し入れがあり、県からは暫定的に、面倒をみてくれと指導が来ている。川内町のごみを臨時に引き受けても、重信町のごみ焼却能力は十分あるし、排気が悪くなる心配はないが、山之内地域の住民とよく話し合い、納得してもらわないといけないと思っている」ということだった。

1年4か月経った今、合併は川内町と決まり、焼却場は大型炉から小型炉へと変わりつつある。3月県議会で加戸知事は、「県が愛媛大学農学部に開発依頼したダイオキシン類削減対応の小型焼却炉は、発生量が基準値を大きく下回り、格安であることが立証された。2002年度、魚島村の実用炉での効果検証後、この成果を愛媛方式として全国にも普及させ、ダイオキシン類削減のモデルにしたい」と。また、武智県環境部長は、「市町村合併の行方も留意して、ごみ広域計画を見直したい」と述べている。

こうなった場合、今、川内町のごみを重信町で焼くという既成事実を作ってしまったら合併後の焼却場は、すんなりと重信町に決まるのではと懸念される。

川内町からの申し入れがあって以来、山之内地区住民は何度となく話し合い、町側とも話し合いの場を持ったと聞いた。今の焼却場を作った時の経緯、その時の協定書の進捗状況もあり、なかなか「はい、どうぞ」とはいかない心境とも聞いた。俗に言う迷惑施設を抱えてくれている地区には、それなりの配慮があってしかるべきだと思う。

重信川に隣接している焼却場。川内町のごみを受け入れたと仮定し1.5倍ほどになるかというごみを焼いて焼却炉は大丈夫なのか。煙は、水は大丈夫なのだろうか。

上流に産廃最終処分場がある中山川水系に一部の水源を持つ東予市は、水道法に基づく毎月の検査(10項目)、年1回の全項目調査(46項目)を実施し広報で公開している。

重信町も、水質検査の結果、ダイオキシン類の測定結果を公表して欲しい。

安全なら安全と数値で示して欲しいものである。

(S・K)

くらしの学習会 会計報告 (2001.1~12)

収入 (円)

会費	37,000
カンパ	8,000
<u>絵葉書カンパ</u>	<u>7,500</u>
	52,500
<u>前年度繰越金</u>	<u>98,751</u>
収入合計	151,251

収入合計－支出合計＝

151,251-38,084=113,167

次年度繰越金

支出 (円)

会報	
用紙代	2,610
切手代	7,580
コピー代	1,260
封筒	315
おさんぽ会	
保険 (2回)	6,000
ガソリン代	
(4台)	4,000
団子代	1,500
高知牧野植物園行き	
保険	3,000
交通費	5,210
ポレポレ野遊びの会参加	
参加費	2,000
駐車料金	650
扶桑社教科書 2冊	1,959
出合い塾	
講師料	2,000
<u>(マダガスカルの話)</u>	
支出合計	38,084

以上

## 川の汚染の現実（横河原）

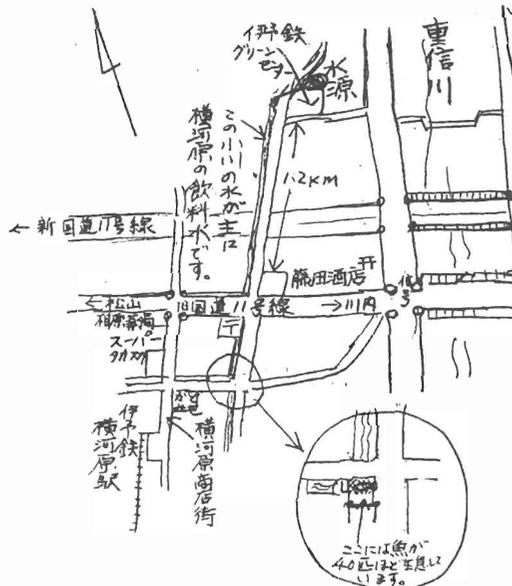
過去 50 年の間に、日本の河川の魚貝類の多くが死んでしまったのではないのでしょうか。50 年前はどここの河川も川の中をのぞくと小鮒、はや、めだかなどが水藻の中で見え隠れしたものです。川内町の南方を流れる表川では体長 20センチメートルに育った鮎が群をなして回遊しているのが見られました。その頃はどの河川も淡水魚貝類は生命が輝き、躍動感に満ちていました。

私は小学生の頃、父に連れられ鮎を釣りに行き、咽が乾くと、流れの水を両手で掬って飲みました。昭和 30 年代、稲の殺虫剤としてホリドールが使用されました。この農薬のため害虫だけでなく、たにしをはじめ、おたまじゃくし、たがめ、どじょうなど水田にいた生物のほとんどが死んでしまいました。勿論この時期にほたるが全滅しました。この被害は人間にも及び、国がそのことに気付き使用を中止しました。

その後も、小川の二面、三面コンクリート工事の整備事業により、淡水魚貝類の生息範囲が狭まり、その後も農薬や除草剤などの影響で河川では魚影を見ることがほとんどなくなりました。

私が今住んでいる横河原商店街を横切って流れている川（図面参考）の汚染も最悪の状態です。ビール、ジュース等の空き缶、発泡スチロールの箱類、ビン類、不燃物、残飯類（ビニール袋に入れたままのもの）、生活排水、時には座布団、布団まで流されています。この川の水は横河原の簡易水道の水源の水でもあります。この川の水が横河原住民の生命の水となっていることを横河原の人々に知ってもらいたいです。

この川の水源は横河原の藤田酒店を北東に 1、2 キロメートルさかのぼった伊予鉄グリーンセンターの北側にあります。ここはたぶん重信川葛蒲堰からの伏流水です。



私は仕事の場所がら、毎日数回この川の中（図中の○の中）をのぞきます。1か月に1回は空き缶やビン類などの不燃物を拾います。1回で70缶から80缶拾い上げます。この川沿いに住んでいる人々が気をつけてくれればこの川はもっときれいになります。私たちの生活を守るために環境汚染についての地域の人々の理解と協力を切に望みます。

(S・O・S)



### 私にとっての自然観察



向こうから歩いてくるノライヌと、つい目が合ってしまう。たいてい相手はなんだ何か用事かといった目でこちらを見る。ネコを見かけてもヤモリやチョウを見つけても同じ感じで、やっぱりこちらはかかってに、やあ元気かと声をかけたくなる。これも一種のアイコンタクトかなあと思う。自然観察を始めてからはとくにそういう気分になることが多い。わずかに残った小川でアミを振り回し、メダカをとる、ドンコをすくう、山地のたんぼにイモリを見に行く、学校の理科室でプラナリアだのナメクジウオだのを見せてもらう。それがけっこう楽しい。勉強などという言葉から離れて、もちろん損得勘定も関係なく、ただ心を遊ばせてやれるように思う。蝶だって、モンシロチョウとアゲハしか知らないでいるのは損だ。優美なミヤマカラス、キザな模様のツマグロヒョウモン、シックなスミナガシ、最近知ったこれらの蝶は散歩のたびに出会いを期待するようになった。これから私は年をとって髪も白くなり歯の本数も減って行って淋しくなる一方だから、どうやって自分の心を楽しく遊ばせてやろうか知らんと思っているが、こんな具合で自然観察も役に立ちそうだ。

(K・K)

子どもたちと一緒にのおさんぽ会、本格的な自然観察会の他におばさんたちのためのおばさんによる自然を楽しむ会があってもいいのでは・・・こんなコンセプトのもとに企画を考えています。興味のある方は、ご一報ください。一緒に企画しましょう。

## アルツハイマーとアルミの関係

何年前だったか、アメリカで、日本人家族が全員惨殺された事件が起きたのを思い出した。犯人はまだ捕まっていないと記憶しているが定かではない。確か、学者をしている人の一家だったと思う。当時、その人は、アルミとアルツハイマーとの関連の確証をつかんでいたと報道されていたように思う。それと殺人事件が関係があるのかどうかは分からない。しかし、最近の新聞記事を読んで、ふとその事件のことを思い出してしまった。(T・H)

# アルツハイマー

ごく微量のアルミニウムと、ごく小さな脳こうそくなどによる低酸素状態が重なると、細胞がアルツハイマー病の引き金物質を大量に作ることを、大阪大の遠山正弥教授らの研究チームが培養神経細胞を使った実験で確認した。アルツハイマー病は、85歳以上の5人に1人がかかると

## 阪大教授らチーム

いわれている。アルミニウムを67・5ppb(ppbの関係は30年ほど前から疑われていたが、明確な証拠はなかった。29日から静岡県浜松市で開かれる日本解剖学会で発表する。研究チームは、人の神経がん細胞を、有機アル

2V)というたんぱく質を作り始めた。低酸素だけ、またはアルミだけの場合もPS2Vを作るが、量が少なかった。研究に当たった片山泰一助手と大学院生の松崎伸介さんは、アルミと低酸素という二つのストレス要因が重なることで、強い病原性を発揮する

水道法では、水道水のアルミニウム濃度目標を200ppb以下としている。今回の実験はそれ以下だった。鳥取大医学部の飯塚舜介・助教授(医療環境学)は「アルミは腸での吸収率が極端に低いので、飲み食いしたものにしているアルミがそのまま脳の細胞にいくわけではなく」と話す。

水道法では、水道水の

# アルミとの関係確認

細胞実験  
低酸素状態で  
引き金物質大量に作る

## ゆとり教育の行方

学校週 5 日制導入を目前に控えて新聞記事もそれに関連したものが多く見受けられる。ゆとり教育の目玉「総合学習」については、多くの紙面を割いている。トンボの成長を観察する池づくりを通じたの環境学習、地場産業のハマチの養殖、麩生産への理解を深める学習など、現場ですすでに行われている例が挙げられていた。そこには、児童の間で目標を持って進んで活動する気持ちが芽生えたり、他地域との交流が活発になったりと、手応えを感じ始めている学校も多いとあった。そんなに簡単に変わるのだろうか。本当に変わってきたのなら、喜ばしいことだが……。一方で、先生方が、何をしたらいいかわからなくて、何か国際交流に関係あるようなことをやっておけばいいのではないかと考えて、留学生を学校に招いて話をさせたり、交流会を開いたり花盛りだと聞く。日本語がよく話せる留学生は引っ張りどころらしい。なんだか安易な気がしてならない。ゆとり教育……。目指すものは理解できるが、それならばこの形が果たしていいのか。はたまた基礎学力なくしていろいろなものを感じたり表現したりできるのであるだろうか。いろいろ疑問を投げかけたくなる。今、日本の教育は、二分化されつつある。お金で教育を買える人の子女の教育とそうでない人の子供の教育。生活していく上で最低限のものも保証されていない公教育は末恐ろしい感じがする。アフガニスタンで、国を再興するとき何が大事かと言えば、第一に教育が挙げられた。教育は国の基本である。どんな国民を育てていきたいかが問われている。週休 5 日制は是認したとしても、学校時間はしっかり勉強に充ててもらいたい。貴重な基礎学力を付ける時間を有効に使ってもらいたい。それ以外の時間はゆとりに回してもいい。ある留学生が、自分の子供を日本の小学校に入れて、述べた感想。「勉強も遊びみたいで、いつ勉強をするのかと不安になる。」ゆとりによる考える力は生活や遊びの中から生まれる。総合学習という勉強とも遊びともつかない中途半端なものからは本物の考える力は育たないのではないか。基礎学力に裏付けされた教育が根底にあってこそ、遊びの中で、生活の中で、考え、自己表現する事ができていくのではないかと思う。最近の教育の動向を見ていて、これからの日本の子供たちはどうなっていくのか危惧の念を抱かずにはいられない。

(T・H)

## 今後の予定

4月例会 4月15日(月) 午後2時から

町民会館2階 第1研修室

これからいい季節になりますから、よくばって、おさんぽ会も、したいですね。また、企画が決まり次第ご連絡します。

久々に出会い塾も考えています。フィンランド出身の方のお話は、実現可能です。後は、日程の調整でしょうか。頑張ります。

今治方面にご主人の転勤で引っ越す会員に、今後今治方面の記事を書いてもらうことになっています。紙面に幅が出てくるのではと期待しています。

今回、賛助会員の方から寄稿をいただき感激しています。この会報が、皆さんの意見発表の場になるのなら、こんな喜ばしいことはありません。賛助会員の方、それにこだわらずどなたでも、いつでも原稿をお寄せください。みんなで、楽しい紙面を作っていきましょう。

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2000円/年 購読会員 1000円/年

振込口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問い合わせ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: [kt-hayashi@nifty.com](mailto:kt-hayashi@nifty.com)

## 編集後記

合併問題の行方はいかに。私たちは何をなすべきか。住民にとって、重信町にとって、国にとってどうあるべきなのか。最近の国会の状況などを見ると、本当に何が必要で、どうあるべきなのか考えさせられることが多いですね。2002年の動向が今後の世界を占うような気がします。(T・H)